



宝木地区公民館だより

わくわく泊り隊<8月4日~6日> 河内川でカヌー体験

宝木地区公民館長

吉田和行

4月よりのスタートした、平成26年度上期には多くの宝木地区公民館事業に皆様の多大なるご支援と理解を頂きましたこと、心よりの御礼申し上げます。

年度入り早々より「近年には例を見ない」とまで言われる程の大雨により、全国各地に大きな傷跡を残した異常気象が連続する半年でした。宝木地区公民館事業も例外なく影響を受け、都度皆様にご迷惑、ご不便をお掛けしましたこと、申し訳御座いませんでした。

そんななか前夜のゲリラ豪雨より一転し、いい天気にくぐまれ、大いに盛り上がった校区町民運動会が無事開催されましたこと感謝致しております。

10月1日よりスタートの下期には宝木地区の皆さまが日頃のご活動をご発表頂く場として、宝木地区文化祭が「あし

たを拓く宝木のちから」との理念のもと、10月25日(土)・26日(日)と二日間開催されます。作品展示、芸能発表はもとより各団体様のイベントなど盛りだくさん予定されており、楽しい文化祭となります。好天に恵まれ、是非とも多く皆様のご参加、ご観覧が実現されますよう心よりお待ちしております。

地区公民館長を拝命し1年半半経ちました。国の社会教育法による四つの事業、いわゆる「生涯学習」と、鳥取市自治基本条例による「市民と行政の協働のまちづくり」の二つの大きな指針の下、宝木地区公民館はいま何をどうなすべきかさ迷い、戸惑う日々ですが、先日松江市で開催された中四国公民館研究集会にて、いわゆる「目からうろこ」的な実践発表に接し、驚きとともに感動しました。それはすでにご存じの方も多いと思いますが、隠岐の島、海士町の「離島からの挑戦」というものでした。地方交付税だ

よりから脱却できず財政再建団体への転落の危機で第二の夕張市と言われていたとのこと。さらに人口は最大時7,000人から最少2,300人まで大幅減となり、「町の存続さえも危うい緊急事態」からの見事な脱却ストーリーでした。

全住民にて危機感を共有し、行財政改革、地域再生計画、特産品のブランド化・起業化の促進、U・イーターナー者全力支援など多くの施策の実践発表がありました。耐えがたい程の苦難と大きな痛みを克服し、財政再建、産業振興に命運を懸け、人口減の歯止をし、且つ30、40歳台のU・イーターナー者を増加させ、現在437人のイーターナー者が定住といった結果となっているとの事。

更には、大きな課題である子ども人口を維持すると共に、入学者激減で存続危機に直面した島前高校が「島前高校魅力化プロジェクト」を行政と一体になり積極推進し、4年間で入学者倍増を実現させたこのこ

と。そのうち約半数が県外よりの入学者であり、日常の教育現場で生徒自身が、全国、海外との積極的コミュニケーションを実践している驚愕の現実でした。このように日々勉強させられる事の多さを痛感する毎日です。

10月よりの下期スタートに当たりまして、皆さまの引き続きのご指導、ご支援お願い申し上げます。

文化教室に参加して

淀 美津子

七月二十八日に、文化教室に参加させていただきました。

天候は晴れ。出かけるには最高の天気でした。

まず向かった先は、餘部。私が今回文化教室に参加したのは、この餘部に行くからという理由と言っても過言ではないくらいです。

といいますのも、私の主人の祖父が鉄道関係の設計をして

いたらしく、餘部鉄橋の建築に関わったこともあり、「餘部鉄橋の上から鶏を落としてみた」などという話を、生前何度も聞かされていたからです。

さる場所へ行き、記念撮影です。こちらにも、景観が素晴らしかったです。

最後は、山陰海岸学習館に行き、ジオパークの説明を受けました。

もちろん、今回が初めてではなく過去に何度かは訪れてはおります。前回訪れた時には、まだ工事中でした。

この所、耳が悪くなり、説明をきちんと聞き取れず、内容があまりわからなかったのが、残念です。

今回、久しぶりに訪れてみて、駅まで歩くのは大変でしたが、その景観はすばらしく、またとても綺麗に整備されている事に驚かされました。

餘部の後、あじわら小径を通り、先人記念館に行きました。立派な土間、大きな神棚に圧倒されながら中に入りました。昔の調度品などが展示しており、しばし昔を懐かしみながら拝見させて頂きました。

続いて、諸寄港を望む事がで



また、機会がありましたら、ぜひ参加させていただきたいと思えます。

ありがとうございます。

環境視察研修に参加して

野村 雅江

最初の目的地「鳥取放牧場風力発電所」（鳥取市越路）鳥取県庁として初めての風という自然の力を利用した風力発電

所。鳥風・空風・梨風と命名されたる基が私たちの家庭のおよそ1,500戸分の電力を賄うことができ利用されているとのこと。風力で発電するため、原油の使用を減らすため、



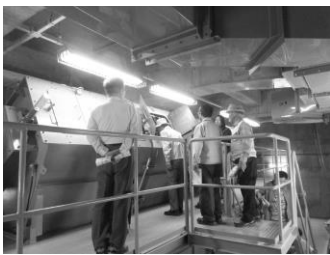
地球温暖化の原因とされる二酸化炭素を減らし環境にやさしいクリーンなエネルギーとなっている。

「殿ダム」(鳥取市国府町)は中国地方最大の高さの平成のピラミッド殿ダム。洪水、川の環境を守る、工業用水、水道用水を供給、水力発電を行うという5つの目的で建設。調査から完成まで半世紀の歳月を経過して完成。土地を提供した殿地区の人たちのいろいろな思いがダムの湖底にはせられているのだと思った。

「雨水ポンプ場」(鳥取市秋里)は、放流水質、環境の改善、

浸水被害の軽減を目的で建設。今年5月に完成。3つのポンプに雨水を吸い上げて溜め、除塵・砂を沈殿分離して、一定量になった雨水を自然流下で袋川に放流。私たちが見学時ゲリラ豪雨とカミナリが発生。想定外のトラブルが発生。職員のただならぬ心配がみられた。施設見学も宝木地区が初めてであったようだ。

一般家庭でも、雨水をためておく家庭用貯水タンクを設置しておくことで災害時に水が止まった場合、貴重な生活水となり、豪雨の時など、家庭用のタンクが多ければ、その分、下流に流れる水が減り洪水を防ぐ一助となる(日本海新聞情報)



先取りした視察研修を宝木地区の人たちと共有できたことを感謝します。

じげ自慢

宝木の宝物

広報部副部長

濱田 秀夫

私達は普段当たり前前に利用しているものが実は大事なものであったと思うのは、常である。宝木の町に住んでいて感じることは、私たちは利用しているながら便利ということに気が付かないことがあります。それはなくなってしまうことで後悔しておればと後で後悔します。

宝木の宝と大そう仰々しく題を付けたのは、宝とは何だろうと考えたとき、住んでいる人たちはもちろん大切でありませんが、他に考えた時に「宝木駅」をもっと私たちは大切に利用しなければと思います。

車社会になって、マイカーを利用するようになり、駅を利用する機会が減りましたが、そこにあることが、いかに便利であ

ることなのか、もっと私たちは理解しなければならぬと思います。

朝方、車の渋滞が発生します。それは近隣の町から生徒を通わせるために発生する渋滞です。8時過ぎまでに150人ぐらゐの利用があります。

また、年配者の利用などを考えると、ますます大切に思います。

なくなる事はないと思いますが、一度この時期に宝木の宝とは何かを考えてみるのも大切だと思います。



わくわく泊り隊

8月4日、5日、6日に「わくわくお泊り隊」がありました。1日目は買い物、アイス作りなどでみんなが自分の役わりなどをきちんときめて、自分の仕事をきちんと果たせたのでよかったです。2日目は、ラジオ体操から始まり、宝喜温泉のことについて学ぶことができました。源泉はとてもあってビックリしました。カヌーの時は少々雨が降っていたけど、とても楽しかったし、「2回目やりたい」という人もいました。夜のきもたぬしも大盛り上がりでした。3日目は、朝からドタバタしていましたが、なんとか「酒津」で魚つりをすることができました。自分たちでつったさかなのからあげは特別おいしかったです。帰りきりになるとみんなが「帰りたくない」や「あと1泊したい」など言っていました。それほどこの2泊3日のお泊り隊が楽しかったんではないかと思います。このお泊り隊でたくさんの方が学ぶことができました。

(6年 上田蒼依さん)



今年も宝木地区公民館に“わくわく泊まり隊”の子どもたちがやってきました。男子3名、女子12名が、8月4日～8月6日まで、二泊三日でいろいろな生活・自然・社会体験をしました。地域のボランティアの皆さんにも、沢山協力して頂き、無事に終える事ができました。ありがとうございました。



第34回 宝木地区文化祭のお知らせ

10月25日(土)

(午後:作品展示のみ)

10月26日(日)

勤労者体育館及び宝木地区公民館敷地内において宝木地区文化祭が開催されます。

作品・芸能発表・フリーマーケット等、野菜市など賑やかなイベント大歓迎に参加して頂ける方、グループを募集中です。

8月4日、5日、6日に2泊3日のわくわくお泊り隊がありました。私はお泊り隊に参加したのが3回目でした。私は、Bグループの班長になりました。女子の中では、3人かせぎみでえらくなった人がいたけど、みんなと協力して助け合うことができました。ごはん作りでも、班の人と協力したり、ボランティアの人に教えてもらいながら作ったりすることができました。自分のことは、自分でやる、ということが学べよかったです。

(6年 公納桜花さん)



編集後記

暑い暑いといっていた今年の夏でしたが、日本中で毎週のように起こる大雨被害に驚いているうちに、いつの間にか本格的な秋の気配です。

日はどんどん短くなり稲刈りが終わって荒涼とした田んぼを眺めていると、ちょっと前まで夏の喧騒にウキウキしていた気分が懐かしくなります。

やっと上期の「公民館だより」ができがありました。いろいろな公民館事業や地元の活動に参加していただいた方に、雰囲気の良い原稿をよろしく、という無理なお願いはかりでしたが、ご協力いただいた皆様、この場を借りて御礼を申し上げます。

そして今年もいよいよ残り三か月、春から一体何をしたいんだろう、と毎年のように感じてしまう時期ですが、感傷に浸っている間もなく1年の仕上げの季節がやってきます。行事もいろいろ目白押しですが、体調管理に気を配って元気に過ごしたいものです。

年が明けると今度は下期の「公民館だより」制作が本格的に始まります。さらにいいものを作りたいと考えていますので、引き続き皆様の御支援をお願いします。